



校報の題字に校歌の一節を加えました。この一節は、平成18年に第25代校長高橋ひさ子先生によって校是とされています。

## 学習の保障

コロナ対策により、学校が休校になったり行事が見送られたりしています。授業も、「なるべく接触をしないように」と、机を離し前を向いて、話し合いや合同の作業もしないようにしながら再開しています。お家の方々には、学習の遅れについてご心配をおかけしておりますが、学習内容については

- ・運動会の取り組みがなかったこともあり、休校があったわりには授業時間は確保できています
- ・似たような内容をまとめたり学習の順番を工夫したりして時間を節約します
- ・今年は、もともと、夏休みや冬休みを短めにして授業日数を多く計画しています

という状況にあり時間は確保できる見通しです。今後の2・3学期も見通して、さらに慎重に進めていきます。

### 心配なのは「どう学習するか」も

心配なのは、学習内容が終わるかということだけでなく、「どう学習するか」ということもです。これまで、学校では、「講義のようにただ聞くだけでは身につかない。子ども同士で話し合ったり体験活動を取り入れたりしながら勉強しないと身につかない。特に苦手な教科は。」などと、学習のしかた（授業のしかた）を工夫してきました。そのような考えから種市小学校では、子ども達に本当に力をつけるには「かかわり」が必要であると考えて授業を工夫しています。「それをどこまでできるか」という心配です。

### 教科だけではなく

「かかわり」を大切にした活動は教科だけではありません。例えば、1学期はじめに6年生は1年生のお世話をしてくれています。掃除は縦割りで行って、下級生は上級生からやり方を教わったりします。こうして、かかわる中で互いに成長していけるのですが、今年度はその機会がないままです（それでも、子ども達は何とかできることを工夫してくれましたが）。

### 今後は

今後は、感染予防対策は最優先に行いつつ、子ども達の「かかわり」を大事にした学習も、徐々に、工夫しながら進めていかなければならないと考えます。

例えば、6年生が、1年生の何人か掃除の仕方を教えに行ってみました。「違う学年の子との交わり」を控えてきましたが、少し行ってみました。3年生は、学区の見学に出かけました。お店などに入ってインタビューなどやりたいところではありますが、交わることは控えて「見てくるだけ」の見学です。

教室の中でも、少し間をあけて集まって話し合ったり、別な教室も使って分散して活動したりははじめました。このような、「かかわり」ながらの学習を行うことが、種市小学校での「学習を保障する」ととど考えています。

## 「家庭でも地域でも感染防止に努めていただいている」ことに支えられてできることです。

各家庭で、手洗い・うがいを行ったり、連休中も不要不急の外出を避けたりしていただけてきました。制限が緩和され「新しい生活様式」が求められる今も、引き続きそれぞれのところでもできる感染対策は続けられています。このように、家庭でも地域でも感染予防の努力が続けられていることに支えられて、学校にウィルスが入ってくる可能性が低く抑えられ、学校は子ども達にとって必要な学習活動を広げることができます。「学習活動を実のあるものにする」と「感染予防」の両立を進めていかなければなりません。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

# われら海の子

## ～磯遊び・磯掃除～

6月5日に「磯遊び・磯掃除」が行われました。活動に先立って、1年生は八戸海上保安部の方から紙芝居を読んでいただきました。マイクロプラスチックを飲み込んでしまったウミガメのお話。4年生は、海上保安部や環境省の方から、「海を大切にしよう」という授業を受けました。そのあと、全校で浜へ移動です。1～3年生は、「磯遊び」を通して海に親しむことで『海を大事にしたい』という気持ちを持たせよう



という活動です。4～6年生は『海を大事にしたい』という気持ちを行動に移す活動です。



1～3年生は「磯遊び」(↑)  
4～6年生は「磯掃除」(↓)

### 見守りありがとうございました



子ども達の見守りのために多くのおうちの方がボランティアとして駆けつけてくださいました。



こうした見守りのなかで子ども達が活動できることがありがたいです。



### あれは何だ!? 飛行機だ! 「かっこいい!!」

活動が終わって、みんな引き上げた後、4年生は代表して、集めたゴミの分別を行いました。丁度分別が終わったころ、南の空に……。海上保安部の飛行機が、種市の上空を間近に通ってくださったのです。子ども達は思わぬご褒美をいただきました。



## 伝統ということ 伝統にしたいこと

今回の磯遊び・磯掃除は13年目になるのだそうです。当時の6年生は25歳くらいになっていることでしょう。そう考えると、伝統になっているとすることができます。海上保安部はじめ関係する方々のお力添えがあることや手伝ってくださるボランティアの方々がおられることも続けてこられた理由でしょう。ありがとうございます。

また、もう1つ続いて欲しいと思っただけのことがあります。それは、「まじめに働くこと」です。大きい学年の子達が一生懸命まじめに働いていました。特に、6年生が一生懸命に働く姿は、「もう一人前」と思うくらい頼もしく見えます。勉強も大事、同じようにこうやって一人前に働くことこそ自慢してよいことだと考えます。この「まじめさ」も伝統にして下の学年が見習っていけたら、ますますよい学校になるだろうと思いました。